

第3次新潟市食育推進計画 数値目標の変更について

No.	指標	対象	集計方法等	策定時	目標値	
				平成28年度	平成33年度	
1 えらぶ						
1	「食(食事や食習慣)」に関心を持っている市民の割合	20歳以上	「関心がある」 「どちらかと言えば関心がある」	75.6% 83.8%	90.0%	
2	生活習慣病の予防や改善のために、普段から適正体重の維持や、減塩、野菜の摂取などに気をつけた食生活を実践している市民の割合	20歳以上	「いつも気をつけて実践している」 「気をつけて実践している」	69.4% 62.4%	75.0%	
3	身近な場所でとれた食材を選ぶ市民の割合	20歳以上	「いつも選ぶようにしている」 「なるべく選ぶようにしている」	- 74.8%	70.0% 80.0%	
4	食べ物を無駄にしないように行動している市民の割合	20歳以上	何らかの行動をしている	67.4% 84.8%	80.0% 90.0%	
5	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断することができる市民の割合	20歳以上	「いつも判断している」 「判断している」	72.0% 63.3%	80.0%	
		20歳代・30歳代		56.8% 53.4%	65.0%	
2 つくる						
6	学校給食における地場産物を使用する割合(食材数ベース)	市内産	-	16.7%	16.0%	
		<参考>県内産		31.9%	-	
7	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法が大切だと思う市民の割合	20歳以上	「大切だと思う」	- 82.0%	80.0% 85.0%	
8	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを受け継いでいる市民の割合	20歳以上	「受け継いでいる」	59.9% 54.7%	70.0%	
		<参考>受け継ぎ、伝えていく	「受け継いでいる」かつ「伝えていく」	41.6% 68.5%	-	
		20歳代・30歳代	「受け継いでいる」	49.3% 48.7%	60.0%	
9	新潟市食育マスター派遣事業の実施回数	実施回数	-	186回	200回	
10	拠点施設等における食育の実践を促す事業の実施回数(主催料理教室・団体体験プログラム・味覚体験等)	実施回数	-	167回	200回	
3 たべる						
11	主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合	20歳以上	1日2回以上	68.2% 67.1%	80.0%	
		20歳代・30歳代		56.5% 49.5%	70.0%	
12	ゆっくりよく噛んで味わって食べる市民の割合	20歳以上	「ゆっくりよく噛んで食べている」 「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」	49.2% 51.6%	55.0%	
13	朝食を欠食する市民の割合	20歳代・30歳代	「ほとんど食べない」 「週に1~2回食べる」	16.1% 19.5%	15.0%以下	
		小・中学生	学校へ行く前に朝食をとるか	1.4%	0.0%	
		<参考>小学生 <参考>中学生	「とらないことが多い」 「全く、ほとんどとらない」	0.9% 1.7%	- -	
14	「共食」が大切だと思う市民の割合	20歳以上	「大切だと思う」	- 85.6%	80.0% 90.0%	
15	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加	20歳以上	1週間の間に朝食または夕食を家族と一緒に食べた回数	9.6回 9.9回	11回	
4 育てる						
16	農林漁業体験を経験した市民(世帯)の割合の増加	-	自身や家族の中に農林漁業体験に参加したことのある人が「いる」	26.1% 27.2%	40.0%	
17	農業体験学習を実施している小学校の割合	市立小学校	-	100%	100%	
18	食育の推進に関わるボランティアの数(新潟市食育マスター)	食育マスター登録数	-	84人・団体	100人・団体	
		<参考>食生活改善推進委員		456人	-	
再	19	新潟市食育マスター派遣事業の実施回数	実施回数	-	186回	200回
再	20	拠点施設等における食育の実践を促す事業の実施回数(主催料理教室・団体体験プログラム・味覚体験等)	実施回数	-	167回	200回